

ちびっことりでワラビ・グスク》地域の特性を生かした“あそび場”づくり

集団による創造性の開発

誌名	造園雑誌
ISSN	03877248
著者名	高野,文彰
発行元	日本造園学会
巻/号	44巻1号
巻号補足	
掲載ページ	p. 44-85
発行年月	1980年8月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター

Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



■学会賞受賞者業績要旨■

ちびっことりで《ワラビ・グスク》

——地域の特性を生かした〈あそび場〉づくり——

——集団による創造性の開発——

高 野 文 彰*

“Children’s Playground” at Okinawa Oceanic
Exposition Memorial Park 1979

by Fumiaki TAKANO*

国 営：沖縄海洋博覧会記念公園

事業主体：沖縄開発庁沖縄総合事務局

設 計：高野ランドスケーププランニング(株) 高野 文彰

設計協力：丸山 修一、鄭 雄男

集団ハンモックデザイン：堀内 紀子

集団ハンモック製作：堀内 紀子・内村 和子・上山美奈子・加藤 美子・
寺岡 千恵

エンジニア：丸山 修一

素 材：(株)森下製網所

柱：(株)前田商事

施 工：(合)沖縄緑地建設

海洋博覧会記念公園は、建設省によって、全国に建設されつつある国営公園のひとつとして、現在、海洋博覧会跡地に整備中である。本公園は、沖縄の北部、那覇市から80kmの地にあり、伊江島への恵まれた展望と博覧会当時に設けられた豊富な展示施設等を中心として県内外の人々に広く利用されている。

「ちびっことりで(ワラビグスク)」は、公園のほぼ中央にあり、約1haの敷地に子どもたちがのびのびとあそべる場をめざして計画された。

■子どものあそび場の4つのタイプ

子どものあそび場をそのあり方によって整理してみると、次の4つのタイプが考えられる。・playground against people ・playground for people ・playground with people ・playground by people。

“playground against people”は、限られた予算のなかで、短期間に多くの公園を作らざるを得なかった社会的背景のなかで、砂場、ブランコ、すべり台等の最少

限度のあそびの機能を満足させる、作り易く、管理しやすい子どものあそび場である。

“playground for people”は、子どもの数多いあそびの要求に対応するため、デザイナーが変化にとんだあそびの場を創出しようと努力するものであり、よい展開ができれば夢多いあそびの場が実現できるが、設計者の自己満足だけに陥る危険性も有している。

“playground with people”は、あそび場を作っていく課程のなかに、住民の意向を反映させながら案を練っていくもので、ここにおいては、あそび場の建設と平行して利用者のあそびに対する理解の啓蒙、完成後にあそび場を運営していく団体となる組織の育成を意図している。

“playground by people”は、行政主体・デザイナーの手によらずに住民が自分たちであそび場作りを行うものである。このあそび場は完成した形を有するのではなく、日々に変化する子どものあそびに柔軟に対応できる。

以上に述べた4つのタイプの子どものあそび場が考えら

* 昭和19年天津生まれ 昭和41年北海道大学農学部農学科花卉造園学講座卒 昭和46年Georgia州立大学院卒
現在 (株)高野ランドスケーププランニング代表取締役

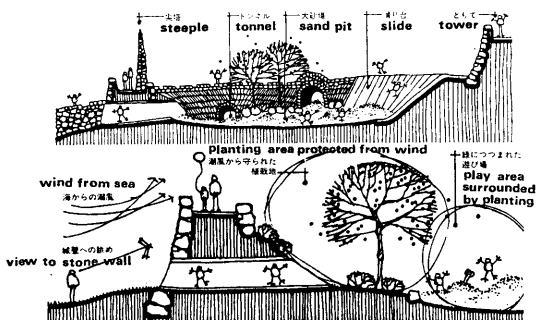
れ、ランドスケープ・アーキテクトとして、そのあそび場のおかれている社会的な状況を適格に把握して、あそび場作りを進めることが重要であり、それによって完成する形体が異なってくるものと考えられる。

このあそび場は、“playground for people の立場で計画されたものである。

■基本的な考え

今日の子どものとりまくあそびの環境をふりかえってみると、都市の内部においては、土地利用の効率、交通処理を前提とした道路計画など、大人の都合による街作りがなされ、最も発言力の少ない子どものあそび場は、管理しやすさを前提としたものが多く見られている。また、遊園地においてはけばけばしい商業主義が前面に押し出され、一時的な楽しみに多額のお金を払わなくてはならないのが現状である。本計画において意図したことは、子どもに夢を与えるあそび場づくりであり、全国どこにでもみられるような画一的なものではなく、子どもたちが自分の郷土の良さを肌で感じうるあそび場づくりをめざした。

また、子どものあそびを考えたとき、単体の遊具を敷地内に点在させるのではなく、一方向に遊びのコースを決めつけるものでもなく、種々のあそびが高低差、空間の変化とあいまって、多様な複合性と連続性を展開させるように意図した。



■計画の概要

敷地は海に向ってゆるやかに傾斜しており、樹木が点在している。敷地からのデザインに対する制約は少なくいろいろな形のデザインに対応しやすい敷地特性を有している。本計画は、沖縄の青い空と青い海に映える白い城がデザインの基調になっており、石材としては現地産のトラバーチン（サンゴ礁石灰岩）が用いられている。

ちびっことりで（ワラビ・グスク）は、2つの塔とそれらをつなぐ城壁によって構成され、それに囲まれるやわらかい空間にすべり台、砂場、木製遊具、トンネル、水のあそび場、集団ハンモックなどが、やさしくつつまこまれている。城壁は図に示されるように海側が石積みになっており、下から見あげたときの城のイメージが効果的に演出されている。また、一旦中に入ると、城壁に





ちびっことりで全景 昭和54年11月スペース撮影 小泉 正幾

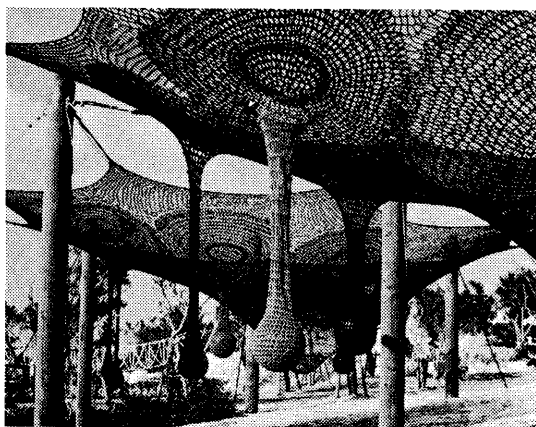
よって潮風から守られた植栽地が広がり、そのやわらかい雰囲気の中で子どもたちがあそびまわることができ、景観上、生態上の配慮がなされている。城壁には、本公園から6 km程離れた今帰仁城跡のもつ有機的な緑が反映しており、また集団ハンモックには沖縄の伝統工芸である紅型の色調がおりこまれ、沖縄の風土に根ざしたランドスケープデザインをめざしたものである。

■糸とあそび

糸を素材とする市場で長い間、子どものあそびにも関心をもってこられた堀内紀子とその制作グループによる色あざやかな集団ハンモックが、子どもの遊びに変化と楽しさを与えている。単一の職種の人たちのみによって物が作られるのではなく、いくつかの分野の人々が協力しあうことにより、幅の広い魅力あるものが作られているのも本計画の特色である。“集団による創造性の開発”の大切さとおもしろさを再確認できた。

■国営公園

このあそび場は、都市公園のなかで最も上位に位置づけられる国営公園として整備されている。国営公園は、多量かつ多様な都市住民のレクリエーションの需要に対



集団ハンモック・ガジュマルタイプデザイン
製作 堀内紀子・54年5月・撮影 堀内紀子

応するだけでなく、これからの新しい公園のあり方について、ひとつひとつ提案と実験を積みあげていく可能性を有しているものと考えられる。また、今迄、管理の問題上実現が困難であったことも、管理財団という組織のフォローによって可能となってきた。

(以下85頁へつづく)

18. 沖縄県における大規模開発に伴う土地
改変 —那覇広域圏の都市の開発を中
心に—

都立大学 理学部 ○武内 和彦
沖縄県 土地利用対策課 府本 礼司

19. 石灰岩地域の自然立地と群落構造
—沖縄・宮古島のタブ林・ヤブニッケ
イ林—

都立大 学理学部 ○武内 和彦
沖縄県立宮古高校 川上 勲

(46頁より)

このあそび場を作るにあたって、多大な理解とチャン
スと適格なアドバイスをくださった芹澤元所長をはじめ
公園事務所ならびに総合事務局の方々に深く感謝いたし
ます。また、天候に恵まれないなかで“ワラビグスグ”
の実現のために御尽力いただいた沖縄緑地建設（現場代
理人 平安基隆）をはじめとする現場の方々にも深く感
謝いたします。

芸術家自分とのかかわりのなかで作品を作っていく
のと異なり、公共の場にひとつのものを作るということ

は、それができていく課程のなかでいろいろな立場の人
々が、それぞれの場でお互いを尊敬しあい、自信と謙虚
さを併せもって仕事にとり組むことがたいせつであり、
今回の仕事は、多くのすばらしい人たちに恵まれたこと
をうれしく思います。

今日子どものあそびをとりまく社会的な環境は、必ず
しも望ましい状態にはありませんが、私は前にものべた
“playground for people” “playground with people”
“playground by people” の立場で取り組んでいき
たいと思っています。

お 知 ら せ

日産学術研究助成候補の推薦について

昭和 55. 7. 20.

造 園 学 会 長

吉 川 需

「自然科学を主とする学術の基礎分野における有意義な研究であって、国の助成となるべく重
複しないもの（その期間が長期に亘る研究、国際的なグループによって行なわれる研究等）に対
し助成を行ない、わが国の基礎学術の向上、進展に寄与する」という趣旨により、表記の研究助
成について、学会宛に推薦依頼がありました。応募希望者は、造園学会事務局に所定の関係提出
資料を請求し、来る9月30日までに申込んで下さい。

なお、助成対象研究分野、助成対象の研究者、研究助成金額等についての詳細は、応答関係資
料として送付しますが、大要は昨年度と変わりませんので、本誌43巻2号26頁を参照して下さい。

関係提出資料の請求にあたっては、送付先記入済のB5版用封筒（定型外）に郵便切手140円
を貼付のものを必ず同封して下さい。